

## 教材・支援機器活用実践事例

### 【手指の動きを引き出し、周囲の変化への気づきを促すスイッチ教材】

	実施年度	平成30年度
授業について	教科名等	自立活動
	単元・題材名	スイッチで扇風機を回そう スイッチでライトをつけよう スイッチで意思伝達をしよう
	授業における教師のねらい	①手指を動かすという自分からできる動きを引き出すー「身体の動き」(1) (2) ②スイッチを押すと扇風機の羽が回り、風が当たることに気づき、周囲の様子に視線を向ける力を育むー「環境の把握」(1)「コミュニケーション」(1) ③スイッチを押すとLEDライトが点灯することに気づき、周囲の様子に視線を向ける力を育むー「環境の把握」(1)「コミュニケーション」(1) ④スイッチを押すとイラストに関連した音声流れることに気づき、対象者の反応を見る力を育むー「環境の把握」(1)「コミュニケーション」(1)
授業における子どもの目標	①教師の言葉かけに応じて手指を動かし、スイッチを入れることができる。 ②スイッチを入れると、風があたる、ライトが点灯する、また、イラストに関連する音声が流れることに気づき、顔の筋肉を動かしたり、身体を動かしたりして反応することができる。	
子どもについて	学校・学級・学年	特別支援学校・重複障がい学級・高等部1学年
	対象の障がい	知的障がい 肢体不自由
	授業形態	個別指導
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のときは姿勢保持いすでの活動が多い。</li> <li>・首を基点に頭を起こす、両腕や左手指を動かす、腕に力を入れ突っ張るなどの動きがある。</li> <li>・言葉かけに応じて、口を開けて笑ったり、眉間にしわを寄せたりする様子などが見られる。</li> <li>・提示されたものを目で追いかけたり、音を聞いて顔の筋肉を動かしたりするなど、視覚、聴覚の反応がある。</li> </ul>
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	名称：「イルカスイッチ」 ①視覚シボルで楽々コミュニケーション ドロップレット・プロジェクト編 (エンパワメント研究所) ②電子回路 (30秒録音・再生) +ボタン電池 ③扇風機 (100円ショップ購入) +単三電池 ④LEDライト (100円ショップ購入) +単三電池 ⑤ドア開閉センサ (100円ショップ購入) ⑥イルカマスコット (100円ショップで購入) ※腹部に導通のための磁石を埋め込み ⑦プラスチックボード (100円ショップで購入)
	活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本生徒の力でイルカマスコットを動かして負荷を加え、スイッチを作動させて、風にあたりたり、ライトを点灯したり、イラストに関連した音声を流したりする。</li> </ul>
授業における支援・教材の配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スイッチ操作する力をできるだけ軽減させるため、バリアフリーのスイッチを作成した。扱いやすさを第一に考え、手に優しくフィットするイルカマスコットを使用した。</li> </ul>
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・何かを操作する経験があまりないため、スイッチを作動させて起こる変化、スイッチの扱いにはまだ抵抗を感じている。自分から動かすまでには至っていないが、教師がイルカマスコットを動かしてそれぞれの動作 (音声、動力、光) を起こすことに、徐々に関心を示すようになってきている。</li> </ul>



